

平成 30 年 9 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 30 年 9 月 3 日（月） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、

NHK、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 9 月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

- ・一般会計総事業費 218,383 千円（うち一般財源 64,329 千円）
9 月補正後の一般会計予算総額 18,552,138 千円
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 魚津を舞台に「ALIVEプロジェクト」はじまる！

- ・社会課題への貢献と自身のリーダー異業種混合型リーダーシップを育む異形種混合型リーダーシップ開発プログラム「ALIVEプロジェクト」が魚津で始まる。参加者は、民間企業の 30 歳前後の職員 25 名で、魚津市からも 5 名の職員が参加する。魚津市はこのプロジェクトの第 2 期になる。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 「たてもんの森」プロジェクト植樹祭参加者募集等について

- ・たてもんの森プロジェクト植樹 3 年計画の 2 年目
- ・植樹する樹種は昨年同様、杉・ヒノキ・ケヤキ（計 240 本）
- ・実施日時 10 月 27 日（土）10 時 00 分から 11 時 00 分頃
- ・実施場所 新川学びの森天神山交流館

今後は、1 年に 1 回の植樹だけでなく、下草刈りなど森の整備の作業も、広く市民の方々と一緒に進めていく取組にしていきたい。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(4) 平成 30 年度魚津市総合防災訓練の実施について

- ・実施日時 9 月 23 日（日）8 時 30 分から 12 時 00 分まで
- ・実施場所 メイン会場 魚津市加積地区 農村環境改善センター（加積公民館）
最近の状況をみていると、行政側が情報を迅速にわかりやすく出すということ

はもちろん大事ではあるが、更に大事なものは、住民の皆さんがしっかり自分たちで情報を理解して、行動に結びつけることができるかどうかだと思っているので、そのようなことを一緒に組み立てていければと思っている。

(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・小中学校2学期始業式
- ・市内小中学校体育大会
- ・ボッチャ体験交流会 松倉小
(パラリンピック等で活躍の藤井友里子選手が、講師で参加)
- ・2018 うおづスポーツレクリエーション祭

〈企画総務部長〉

- ・9月魚津市議会定例会(9/6～10/9 会期35日間)
(昨年に引き続き、決算特別委員会の審査を会期中に行うため、35日と長い期間をとっている。)

〈民生部長〉

- ・「魚津市小中学校通学安全プラン」に基づき、通学路に防犯カメラを設置
(国道の地下道に防犯カメラ3台設置。8月31日に稼動を始めている。)
- ・市民公開講座「女性の病気について知る」
- ・第24回環境フェスティバル
「山から海 自然を守り 未来へつなごう 水・潤・歓」(ありそドーム)
- ・保育園・認定こども園・幼稚園 運動会

〈産業建設部長〉

- ・「ポリテクビジョン in 新川 創立40周年記念講演」が開催
- ・農商工連携インターンシップ2018 成果発表会を実施
- ・魚津市民バス平成30年9月1日改正(今回はバスルート・停留所の変更あり)

3. 質疑応答の内容

「9月補正予算(案)住吉・上中島・松倉小学校整備事業について」

《記者からの質問》

小学校整備事業について、西棟等建築工事で1億5千万円という大きい額だが、資材単価と労務単価、アスベスト対策の3つで割合的に一番大きなものはどれか。

《回答》（企画総務部長）

1 番目に金額的に大きなものは、木材・資材の単価である。次にアスベスト対策、あとは労務単価等の引き上げである。

《記者からの質問》

アスベスト対策かと思っていたが、木材がそんなに高くなったのか。

《回答》（企画総務部長）

木材については、最初入札が不調になったときに、この設計金額では、なかなか応札できないという話があった。そこで木材単価等を再度精査し、設計金額を引き上げたところ、ようやく落札に至ったという経緯がある。その不足分を、継続費のなかで補ってきたが、それを今回、補正予算として計上するのが一点目の大きな理由である。

《記者からの質問》

西棟については、すべて木材で建てるのか。現状のものを一部改築するのではないのか。

《回答》（教育長）

西棟は完全に木材で新築する建物であり、校舎のとなりに建ち、学童保育が中心の棟になる。建物自体はつながるが、文部科学省の補助金ではなく、厚生労働省の補助金で建築する。すべて木材で建築され、一部コンクリートなどではない。

《記者からの質問》

イメージとして北棟と南棟が中心になるのではと思っていたが。

《回答》（教育長）

北棟と南棟がいわゆる学校校舎である。その西側に、学童保育ができる棟を建てるということである。ちょうど校舎と体育館の間くらいの位置になる。

《記者からの質問》

学童保育のための西棟は、当初の計画からあったものか。

《回答》（教育長）

最初の計画からあった。

《記者からの質問》

最初からあったけれども、資材単価や労務単価を精査するとこれだけの補正金額が必要になったということか。

《回答》（教育長）

そのとおりである。西棟を新たに追加し、この金額になったということではない。

《回答》（副市長）

全国で始めてモデルケースとして木造3階建ての校舎を建てるということであり、通常の木の利用では使えない。材木を最先端加工で加工しなければならない。そのあたりが非常に高くつく。材木自体の金額も上がってはいるが、極端な上がりかたではない。その加工によって当初より大きく費用があがっている。そういうも

のも含めて、1億5千万円という補正額になっている。

《記者からの質問》

校舎側ではそのようなことは起こらないのか。

《回答》(副市長)

先ほどもお話したが、今回の工事は継続費でやっている。最初の入札が不調に終わった時点で不足額があった。それを最終年度で調整しているということである。

《回答》(企画総務部長)

平成29年度から平成31年度の3年間全体で継続費の予算を持っている。これまでに、当初入札不調になったときの不足額などを一時的に充ててきていた。全体予算のなかで何とか収めることはできないかと検討してきたが、校舎解体のアスベスト除去に想定以上の費用がかかることなどから、累積として継続費全体で1億5千万円の不足が確実に見込まれた。それについて今回追加をお願いするものである。

《記者からの質問》

西棟は3階建てであるか。

《回答》(市長)

木造平屋である。校舎については全国初の木造3階建てであるので、色々想定しなかったことが起きている。当初予定していたものから、予算がオーバーしそうになり、削減できるところはないかを見直しをかけながら進めてきたが、それでもどうしても収まらない部分を、最終的に、ここでキッチリと精算するというふうに理解してもらいたい。

「9月補正予算(案)不動産公売等について」

《回答》(企画総務部長)

補足であるが、インターネットによる不動産公売については、平成28年度に初めて不動産公売を行い、実績をあげているがそれ以降は行っていなかった。今回、インターネット公売にかけて売買が期待できる物件があることから、2回目を行うものである。

「9月補正予算(案)こども食堂の開設支援事業について」

《記者からの質問》

こども食堂について、いつどこで行うか決まっているか。

《回答》(民生部長)

市内で10月開催を目処にしている。まだボランティアの方と調整中であり、もう少ししばらくしてからはっきりさせたいと思っている。場所は吉島地内で調整中である。

《記者からの質問》

主導は、NPOやボランティアなのか。市なのか。

《回答》（民生部長）

ボランティアの方から、やりたいということで、ご相談があつて行うものである。

《記者からの質問》

その団体名は。

《回答》（民生部長）

スマイル魚津という団体名である。

《記者からの質問》

NPO法人か。

《回答》（民生部長）

NPO法人ではない。この事業は法人でなくても県の補助は受けられる。スマイル魚津は任意のボランティア団体である。

《記者からの質問》

魚津市で、こども食堂は初めてか。

《回答》（民生部長）

この補助を受けて行うものは初めてであったと思う。補助対象ではなく、独自で行っているものはあると聞いている。今後、要望があれば色々と対応していく。

「9月補正予算（案）交通安全対策事業（認知機能検査受託）について」

《記者からの質問》

（対象者は）自動車学校で行うという部分の何がわずらわしいということなのか。市外の自動車学校に行くことがわずらわしいので、市内で行える場所があったらいいということなのか。

《回答》（民生部長）

今、非常にたくさんの方が受験されるので、予約するのも非常に大変な状況であると聞いている。

《回答》（副市長）

まず認知機能検査を受けなければいけないが、3ヶ月かかると聞いている。

《記者からの質問》

検査を受けるためのキャパがないということか。

《回答》（民生部長）

こちらの方でいうと滑川、黒部、入善地区の3箇所の自動車学校になり、皆さん少しでも早く受けたいと言われるが、それぞれの地区にも75歳が増えており、受験できる人数も決まっているので、自分の希望する日時にとれないとの声も聞こえてくる。認知機能検査を受けて、その結果を受けてからでなければ、高齢者講習にいけないため、まずは、認知機能検査を早く受けてくれと、警察や運転免許センターから指導を受けるが、なかなかうまくいかない。前々から、地元で受けられないかとの要望はたくさんあった。

《記者からの質問》

自治体で行うというのは初めてか。

《回答》（民生部長）

初めてと思われる。県（県警）の受託でおこなう。

《記者からの質問》

富山市でも行っていないのか。

《回答》（民生部長）

富山市では、自動車学校が多くあり、自治体で行う必要はない。

《記者からの質問》

単純にそんな問題なのか。

《回答》（企画総務部長）

そういう影響だと思われる。

《記者からの質問》

対象者がいるのに市内にそういう施設がないということか。

《回答》（市長）

魚津市から、自動車学校がなくなったからそうである。

《記者からの質問》

富山市の自動車学校に行くことはできるのか。

《回答》（民生部長）

県内どこでも受けることができるが、皆さんやはり近いところで受けていいうことで、近場の地区で申し込むがなかなか予約が取れない。富山市にわざわざ行くのも労力がかかるということも聞いている。

《記者からの質問》

自動車学校のない自治体は、ほぼ同じような状況であるか。朝日町も同様か。

《回答》（民生部長）

そうであると思われる。

《回答》（企画総務部長）

朝日町の方は入善町に行っているのではないかと思われる。

《回答》（市長）

魚津市は高齢者の比率も多い。これだけの規模でないということは、むしろ、おかしいなというところはある。